

- \*復旧・復興の3原則とは…①被災された方の痛みを最少化する。  
 ②元の姿に戻すだけでなく、創造的な復興を目指す。  
 ③復旧・復興を熊本のさらなる発展につなげる。

# ここが聞きたい ずばり村政を問う！

笠野 眞喜議員



Q 憩いの家再開計画は

A 早期の運営再開を目指す

笠野議員  
憩いの家の泉源をいつ頃、何処から揚湯されるのか。立野地区近隣住民から、震災前は

憩いの家の天然温泉に行くのが楽しみだったと聞く。温泉はいつ頃復旧するのか。今までの温泉源は、栃木からの揚湯だった。

現在は揚湯施設・配管も被災している。栃木からの揚湯を考えると、新阿蘇大橋の完成後、長陽大橋ルートでの復旧工事が行われ、その後の揚湯施設・配管の整備は3・4年先になる。立野地区の方々はいつまでも温泉入浴ができない。

県知事は熊本地震からの創造的な復旧・復興の取り組みに、復旧・復興の3原則を言われている。

被災された方々の安らぎの場所として、一日も早く復旧してもらいたい。

村長

今後、復旧に際しては、建設当時以上の費用を要することが想定されている。泉源は他の代替えを含め、様々な手段を検討している。来春には立野地区の災害公営住宅40戸も完成する。地域の日帰り入浴施設として早期の運営再開を目指し、現在準備をしている。



再開が待たれる憩いの家

Q ダム工事中の安全対策は

A 工事事務所と村が連携する

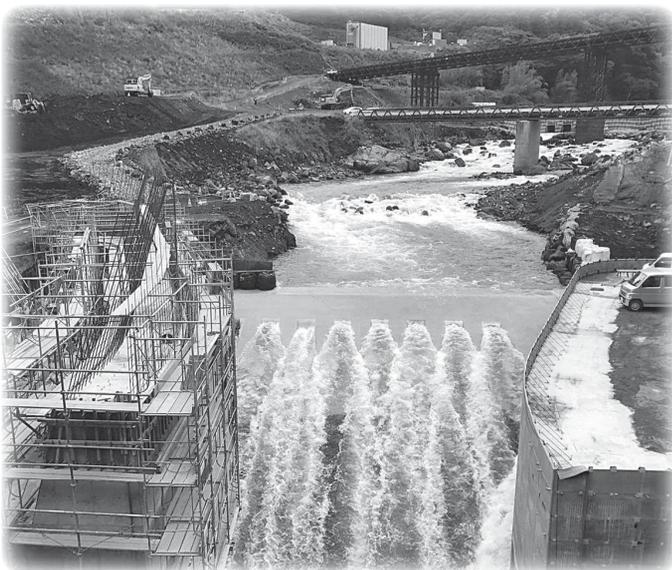
笠野議員

本体工事も着工され、現場周辺は慌しくなってきた。立野地区は長陽大橋ルートの開通で一般車両、震災復旧の車両、ダム工事の車両など、交通事故、騒音、振動、粉塵被害が多くなると予想される。安全対策はもとより、工事への理解と協力を求めるためにも工事関係者とのコミュニケーション向上に努める必要があるのでは。

村長

今後、工事が本格化する。地区住民とのコミュニケーションや騒音、安全対策など、住民の皆様への継続的な説明は重要になるものと考えている。

これまで同様に、立野ダム工事事務所と村が連携をし、議員ご提案のとおり、住民の皆様が安心して生活出来るようにしっかりと取り組んでいく。



本体工事のために流れを変える施設（転流工）

一般質問は、会議録に基づき、質問者本人が作成し、議会広報特別委員会で編集し、掲載しています。詳細は、会議録の閲覧ができます。